

- ☆小林会長年頭挨拶
- ☆クラシノソコアゲ応援団!2016RENGOキャンペーン街宣行動
- ☆青年委員会「第27回定期総会」/女性委員会「第27回定期総会」
- ☆組織化戦略シンポジウム/埼玉大学連合寄付講座
- ☆2015教育フォーラム
- ☆ネット21ボランティアカード/2016年度組合役員教育プログラム
- ☆愛のキャンパ/もうすぐ選挙/1月の行動日程
- ☆あけぼのビル

## 2016年 謹んで新年のご祝詞を 申し上げます

### ～小林会長 年頭挨拶～

## 「働く人の味方でありたい」



小林直哉会長

明けましておめでとうございます。連合埼玉の皆様には、よいお年を迎えられたことと存じます。日頃の連合埼玉の諸活動に対するご協力に感謝申し上げます。

1989年に結成した連合は、25周年を機に「ワーキングピュア白書」(日経BP)を発刊しました。副題は「地道にマジメに働く25歳世代」です。25歳となれば、この世に生をうけてから、ちょうど4半世紀。4年制大学を卒業した人なら、就職して約3年経ち、仕事にも慣れてきた頃かもしれません。

恵まれた職場で生き活きと働く人もいれば、ブラック企業で長時間労働やパワハラに苦しむ人もいるかもしれません。派遣社員やアルバイト生活を続けている人もいるでしょう。どのような場で働いていても25歳世代の多くは、純粹にそして前向きに仕事に向き合おうとしており、本書では彼らを「ワーキングピュア」と名付けました。

25歳世代の一言に大きく励まされ、非正規労働者のための労働組合を作った人が登場します。やりがいと誇りをもって図書館で嘱託勤務していた若い女性が、重い書籍を書棚に戻す業務などで体調を崩して、契約更新されず退職しました。やりがいを感じていた職場を去らなければならない彼女から手渡された手紙には、「あなたはこの職場にいていいんだよ、と言ってもらい、嬉しかった」の言葉がありました。「自分はいてはいけない」なんて感じる職場は間違っています。確かにこの世代は、仕事についてまず自分を責める。でもそれは仕事をすることにピュアだからなのでしょう。こんな素晴らしい若者を生かせない職場や社会の仕組みに憤りを感じ、それを変えようと先輩の一人として労働組合を立ち上げたそうです。こうした人が増えることを望みたいし、「一人じゃない。連合は悩みながら働く人の味方」でありたいと思います。

連合埼玉は39構成組織、12地域協議会、780組合が力を合わせ、組合員皆さんと一体となって、諸課題に果敢に挑戦していきたいと思えます。

# 連合は、働くあなたを応援します

## クラシノソコアゲ応援団!2016RENGOキャンペーン

連合「2016-2017年度運動方針」では、国民の暮らしを中心とした社会的対抗軸を構築し、社会のうねりを呼び起こす運動を提起した。この方針に基づき、政府が重きを置く国・企業の立場ではなく、働く者・生活者の立場から「働く人が報われる社会」を念頭に置き、組合員のみならず広く国民に訴える新たなキャンペーンを展開することとした。(キャンペーン期間:2015年12月~2016年7月)

このキャンペーンでは、街宣行動などをつうじて以下の「4つのキーメッセージ」を中心に、組合員のみならずすべての働く人、働き口を求める人を対象に、格差に苦しみ、将来不安を抱えるみなさんの関心を高め、課題解決につながる発信をおこない、社会に広がりのある取り組みとしていく。

### ■4つのキーメッセージ

- ①「暮らし、苦しくなっていませんか？」  
⇒ 暮らしの底われや格差の拡大を止めよう。
- ②「仕事、きちんと報われていますか？」  
⇒ 働き甲斐のある仕事(ディーセント・ワーク)を取り戻そう。
- ③「老後や子育て、不安はありませんか？」  
⇒ 安心、安全に暮らすためのセーフティネットを要求しよう。
- ④「いまの政策、働く人が主役ですか？」  
⇒ 働く人が報われる政治を取り戻そう。



### 「クラシノソコアゲ応援団!2016RENGOキャンペーン」 開始宣言 街頭宣伝行動

12月21日(月)18:00より、新キャンペーンの開始を宣言する駅頭行動を実施した。

はじめに、佐藤事務局長より、連合埼玉運動方針に基づき「底上げ・底支え」「格差是正」などの課題へ積極的に取り組んでいくことを説明し、続いて青年委員会・川島副委員長/女性委員会・大畑事務局長より、日本社会にまん延する「格差」「将来不安」解消の必要性を訴えた。最後に持田副会長より、新キャンペーンの開始宣言をおこなって街宣行動を終了した。

2016年度、連合埼玉は「クラシノソコアゲ応援団!」として、働くみなさんの立場に立った運動を展開していく。



# “目で見て・耳で聞いて・価値観を持つ”活動を

## 青年委員会 27回定期総会

11月30日(月)、あけぼのビルにおいて「青年委員会第27回定期総会」が開催され、2015年度活動・会計報告、2016年度活動方針案・予算案・役員選出の全議事が満場一致で承認された。

冒頭、矢口委員長より「戦後70年間、過去の多くの人々が守り続けてきた“平和”が脅かされている。また、一部の企業のみが富を得て貧困率は上昇し格差社会が進行し続けている。私たちは働く者の立場に立って、安全・健康・ゆとり・働きがい担保していかなくてはならない。また、労働組合が政治活動をおこなう意義を学び、政治は無関心でも無関係ではいけないということを感じ取れる、青年委員会をつくり出していく」と挨拶があった。また、来賓として連合埼玉大谷副会長より挨拶があった。

議事に入り全ての議事が満場一致で可決された。

そして議事終了後、退任役員挨拶にて「青年委員会は人材育成・人材交流としての場も沢山あり、なにより助けあえる仲間が集う組織だった。絆や経験など多くの財産を頂いた」との言葉があり、最後に矢口委員長の「団結ガンバロー」にて総会を終了した。



団結ガンバロー

### ■2016年度役員体制

役職	氏名	構成組織名
委員長	矢口 昌広	JR総連埼玉県協
副委員長	川島 貴至	運輸労連埼玉県連
事務局長	佐藤 洋太	UAゼンセン埼玉
幹事	磯山 英行	自動車総連埼玉地協
	黒澤 富央	電機連合埼玉地協
	小川 義人	JAM埼玉
	庄司 洋志	自治労埼玉県本部
	若狭 進介	JP労組埼玉連協
	大畑 恭平	埼玉県電力総連
	五十嵐 稔博	情報労連埼玉県協
	龍口 隆二	印刷労連関東北部
	金子 亮央	JEC連合埼玉地連
	前田 雄輝	JR総連埼玉県協
	吉武 俊隆	化学総連埼玉地連
	門倉 進	全国ガス埼玉
塚本 茂善	政労連埼玉地連	
天沼 毅大	建設埼玉	

### ■退任役員

役職	氏名	構成組織名
副委員長	梶原 健太	電機連合埼玉地協
事務局長	篠崎 一政	情報労連埼玉県協
事務局次長	豊西 健一	JAM埼玉
幹事	齋藤 貴一	UAゼンセン埼玉
	近藤 隼人	自治労埼玉県本部
	沼田 賢洋	埼玉県電力総連
	石井 一行	印刷労連関東北部
	江郷 俊太	JEC連合埼玉地連
	竹田 修	化学総連埼玉地連
	海原 崇人	政労連埼玉地連
	木村 慧	埼玉森林労連

# 女性がいきいきと働き続けることができる環境を!

## 女性委員会 第27回定期総会

12月4日(金)あけぼのビルにおいて「女性委員会第27回定期総会」を開催し、2015年度活動・会計報告ならびに2016年度活動方針案・予算案・役員選出の全議事が満場一致で承認・決定された。

上杉委員長は冒頭の挨拶で、これまでの自身の組合活動7年間を振り返り「活動を始めた頃は自分が知っていると思っていたことはほんの一部分であったことを思い知らされた。人前で話すこと、やってみることが大事。みなさんと一緒に女性が生き生きと働き続ける環境をつかっていきたい」と述べた。その後、連合埼玉を代表して男女平等参画推進委員長の持田副会長、来賓として民主党埼玉県総支部連合会男女共同参画委員長の山本正乃県議会議員より挨拶があった。

総会終了後のセミナーでは、声と話し方コーチ/ストレスコーピングトレーナーの山口容子先生を講師に迎え、「ハッピーボイストレーニング」と題し、「声と心の関係」「明るい声で気持ちよく話すための発声テクニック習得方法」を自身の実体験などを元に講義された。さまざまな実践を交えながら、楽しくリラックスした雰囲気の中で学ぶことができた。本セミナーには、連合埼玉が推薦する女性議員の方々も参加した。



参加者のみなさん

### ■2016年度役員体制

役職名	氏名	構成組織名
委員長	上杉 裕子	電機連合埼玉地協
副委員長	新山 元子	運輸労連埼玉県連
事務局長	大畑 幸子	自動車総連埼玉地協
幹事	齋藤 舞	UAゼンセン埼玉
	木村あずさ	電機連合埼玉地協
	福田 祐子	JAM埼玉
	櫻井 克子	自治労埼玉県本部
	半田 純子	JP労組埼玉連協
	八戸 広美	埼玉県電力総連
	桑川 恵子	情報労連埼玉県協
	古賀 初代	印刷労連関東北部
	村山 実子	国公総連埼玉
	滝沢千恵美	埼玉教組
	深井 智子	政労連埼玉地連
	中島 彩香	建設埼玉

### ■退任役員

役職	氏名	構成組織名
幹事	松田 典子	自治労埼玉県本部
	菅原真由美	埼玉県電力総連
	滝澤美佐子	情報労連埼玉県協
	石岡 真弓	JEC連合埼玉地連
	飯島美紀子	政労連埼玉地連
	渋谷 志保	建設埼玉



## 地域・NPOとの関わりを全国に発信

～組織化戦略シンポジウムにて連合埼玉の取り組み報告を行う～

10月29日(木)法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワーにて、連合主催の「組織化戦略シンポジウム～アメリカ労働運動の新機軸にみる可能性～」が開催され、連合埼玉の佐藤事務局長より、連合埼玉の取り組み事例報告をおこなった。このシンポジウムは、未組織労働者が8割を超えるなか、集团的労使関係を日本の隅々にまで張りめぐらすためには、今後は地域やコミュニティを巻き込んだ労働運動を展開することをはじめとし、あらゆる手法を研究・駆使し、運動構築を模索し続けなければならないということから開催された。

シンポジウムではUCLAレイバーセンター所長のケント・ウォン氏より「新しい労働者階級のための新しい労働運動」と題し基調講演があった後、早稲田大学篠田徹教授とのセッションがおこなわれた。そのなかでは「アメリカの労働運動は一般市民も巻き込んでおこなっている。経営者や中産階級の人でも最賃の引き上げを支持している。その理由は、自己のことだけではなく、友人や親戚、隣人のなかにも最賃で働いている人がいる。それを何とかしなければならないと考えているため。職場と地域を切り離すのではなく、点が面になる活動をどのようにおこない地域と結びついていくかが大切」と話があった。

その後、地方連合会として、ネットワークSAITAMA21運動やライフサポートステーション機能を併せもつ地域事務所の活動について、佐藤事務局長より報告をおこなった。報告では、NPOとの連携による埼玉県に対する政策制度要請への反映や、地域事務所での自治会、若者サポートステーションとの協力についてふれ、お互いの運動を理解し、組合員でない人とも共通の課題を見出し、裾野を広げていく活動を今後も引き続きおこなっていくと話をした。



事例報告をする佐藤事務局長

## 働くということと労働組合

～2015年度後期埼玉大学連合寄付講座～

12月1日(火)埼玉大学経済学部において、連合寄付講座がおこなわれ連合埼玉の佐藤事務局長が「職場・地域の現状とその対応～地域で雇用と生活を守る～」をテーマに約100名の学生に講義をおこなった。

この埼玉大学寄付講座は、(公社)教育文化協会が主催し、連合ならびに構成組織、連合埼玉が協力し、「働くということと労働組合」をテーマに2015年10月から2016年1月にかけて大学生に対し、講義をおこなっている。講義では連合埼玉がおこなっている「既卒3年以内の就職面接会(埼玉労働局主催)」「東日本大震災県内避難者支援」等の活動を紹介し、次に「最低賃金」「労働相談ダイヤル」等にふれ、安心して働くために最低限必要なことについて話をした。今回は、若者を苦しめている問題として、「奨学金問題」「ブラックバイト」についても話をした。ブラックバイト問題では、職場の過剰な組み込みや最低賃金で働かせている現状、パワハラ等の人格的支配が起こっており、もしその様なことに巻き込まれたり、友人から聞いたりした場合は、労働局や埼玉県の相談窓口、または連合埼玉に相談するよう呼びかけた。講義の最後には学生から、「もし最低賃金が上がれば、企業のサービスや商品の値段が上がり、物価が上がってしまうのではないのか」「最低賃金の目安はどのような基準で決定しているのか」「最賃違反等の調査はおこなわれているのか」「就職面接会で企業は多く参加しているが、採用された人が少ないのはなぜか」「ファミレスや流通関係はブラック企業のイメージがあるが、組合はあるのか」といった質問が投げかけられた。また、講義終了後、奨学金問題に対する署名活動と呼びかけ、奨学金を利用する学生を中心に署名への協力を得た。来年度以降も連合埼玉としてこの寄付講座に協力し、これから社会に出る学生に労働について考える場を提供していく予定である。



講義をする佐藤事務局長

## 社会問題としての奨学金を考える

～2015教育フォーラム開催～

11月6日(金)ときわ会館にて、連合埼玉と埼玉労福協主催で「教育フォーラム2015」を開催した。今年度は「社会問題としての奨学金を考える」をテーマに、講師として大内裕和中京大学教授を招き、奨学金に関する問題について講演をおこなった。

大内教授からは、奨学金問題の課題の一つとして、ジェネレーションギャップがあげられる、という話があった。学生を取り巻く環境が大きく変化してきたことで、「奨学金を返したくても返せない」「奨学金の返済のために結婚もできない」という人が増えているのが実態であり、多くの人に奨学金問題について関心を持ってもらうこと、奨学金制度の改善に取り組む必要があることを、改めて認識するフォーラムとなった。



大内裕和教授



フォーラムの様子

## 若者を苦しめる奨学金問題の解決を!

「借ったお金は返すのが当たり前」「経済的に大変ならば高卒で働けばいい」という声も聞かれる。

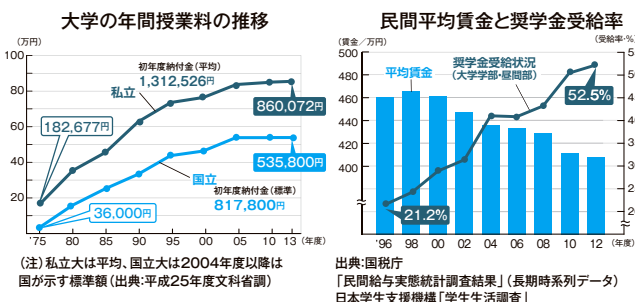
しかし、大学授業料の高騰、高卒求人状況の変化、また、奨学金制度の問題もあり、有利子奨学金を借りなければならぬ学生、奨学金を返したくても返せずに苦しんでいる若者が増加している。

若者の学びと成長を社会全体で支えるためにも、現状を多くの人に知ってもらい、多くの声を集め、奨学金制度を変えていく必要がある。連合埼玉としても、奨学金問題の解決にむけて取り組みを進めていく。

### 【高騰を続ける大学の授業料】

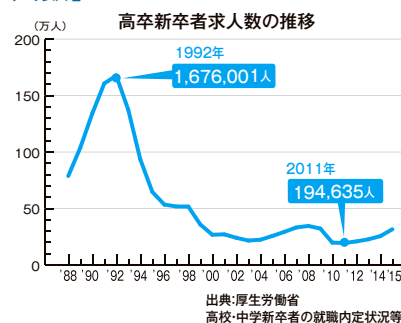
1970年代半ば以降、「受益者負担論」により公費支出が抑えられた結果、大学の授業料は値上げが繰り返され、世界で最も高い水準となっています。

親の負担も大きく膨らみ続ける一方、雇用制度の変化もあり、家計収入は減少の一途をたどっています。その結果、今や大学生の2人に1人が何らかの奨学金を利用しており、その平均貸与総額は295万円となっています。



### 【激減した高卒求人】

1992年に167.6万人だった高卒新卒者求人は、2011年には19.5万人弱に減少しており、半ば進学を強いられているのが若者の現状です。



### 【返したくても返せない】

就業状況の変化により、派遣社員やアルバイトなど非正規雇用につく大卒者も増加し、「安定した収入を得て返済する」という前提は大きく崩れています。

延滞者には延滞金(年5%)が課され、さらに、延滞後は返還金(年5%)が課せられる制度となっているため、元金を減らすことができず、一生、返済に追われることになりかねません。

### 変えよう! 奨学金

1. 貸与から給付へ
2. 貸与型奨学金の改善
  - 利息・延滞金のない無利子の奨学金
  - 所得に応じた無理のない返済制度
3. 大学などの学費引き下げや授業料減免の拡充を!

### 【世界の主流は給付型】

OECD加盟34ヶ国のうち、半数近くの国は大学授業料が無償で、32ヶ国に公的な給付型の奨学金制度があります。大学の授業料が有償で、国による給付型奨学金制度がないのは日本だけです。

さらに貸与型奨学金においても無利子枠の拡大はされない一方、有利子枠の拡大は続けられており、奨学金を利用している学生の2/3が有利子枠となっています。

## ネットワークSAITAMA21運動(ネット21運動)

2016年度ボランティアカード 普及・拡大キャンペーン!

### ネットワークSAITAMA21運動って?

ネット21運動は、連合埼玉と埼玉労福協が推進母体となり、勤労者の暮らしを生涯にわたってサポートする運動や子育てや介護をはじめ、地域社会で解決しなければならない問題に取り組むため、労働運動や労働者福祉運動と、埼玉県内の様々なNPOや市民団体との連携をつうじ、働く者と地域の市民が出会い、理解しあって、勤労者の生活と暮らしを支え合う「共生の地域社会づくり」をめざす運動です。

### ボランティアカードとは?

ボランティアカードは、「ネット21運動」への協力の証として発行されるものです。ご協力をいただいたカード協力金(500円)の内、契約料やカード代などを差し引いた額が「ふれあいコミュニティ・ファンド」に寄付され、各種セミナーやNPOへの支援など、様々な事業に活用されています。なお、カードはAタイプ(約200円がファンドへ寄付)とBタイプ(約400円がファンドへ寄付)があり、Aタイプのみリゾートソリューションのサービスが付いています。また、A・B共通の埼玉県内を中心としたサービスもあります。詳細はホームページ(<http://net-saitama21.jp>)でご確認ください。

## 普及・定着のための説明会を開催させていただきます!!

構成組織、加盟組合、地域協議会にて説明会を開催させていただきます。皆様の会議等でお時間を頂ければ、事務局から派遣し、説明をさせていただきます。ぜひ、お声掛けください!

## 「2016年度組合役員教育プログラム」開講します!

労働組合役員として、企業内対応のスキルならびに客観的な判断力を身に付けて頂くため、①学習による人材育成、②人材交流による人材育成、の2つの観点から人材育成を進めていくことを目的に、今年度も組合役員・役員予定者を対象として下記の講座を開講いたします。構成組織ならびに加盟組合の皆さんの積極的なご参加をお願いいたします。なお、「実務講座」は3月下旬、「スキルアップ」は6月下旬より受講生募集をおこなう予定です。(会場は全て「あけぼのビル」です。なお、「基礎講座」は募集受付中です)

### ■基礎講座 時間10:00~17:00

1/27(水)	①労働組合の意義と機能 ②組合役員の立場と役割
1/30(土)	③組合役員のためのコミュニケーション力開発①(リスニング) ④会議の進め方①(職場討議・集会の進め方)
2/3(水)	⑤これだけは知っておきたい労働法(労働法初級) ⑥健全な労使関係と働き方のルール(労働法中級)
2/6(土)	⑦労働組合の社会的役割~労働運動の起源 ⑧埼玉県の労働福祉運動の役割

### ■実務講座 時間13:00~17:00

5/14(土)	⑨三六協定の実務(時間外労働と休日労働)
5/18(水)	⑩団体交渉・労使協議の進め方
5/21(土)	⑪労働組合が取るべき経営対策活動とは?
5/25(水)	⑫メンタルヘルスと職場での取り組み方
5/28(土)	⑬キャリア開発(より良い働き方を考える)
6/1(水)	⑭ミッション・ビジョンの重要性(過去から未来へ)

### ■スキルアップ

8/24(水) 13:00~17:00	⑮プレゼンテーション (納得性を高める伝え方)
8/27(土) 10:00~17:00	⑯組合広報誌の作り方
8/31(水) 13:00~17:00	⑰組合役員のためのコミュニケーション力開発②(アサーション)
9/3(土) 10:00~17:00	⑱組合役員のためのコミュニケーション力開発③(コーチング)
9/7(水) 13:00~17:00	⑳イベント企画の立て方とその運営
9/10(土) 10:00~17:00	㉑会議の進め方② (ユニオンファシリテーション)



# 連合埼玉は「連合・愛のキャンパ 地域助成」を受付けます!

## 【目的】

人道主義の立場から「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向け、社会貢献活動として取り組むものでNGO・NPO団体などの事業・プログラムへの支援、および自然災害などによる被災者に対する救援・支援を目的としています。

## 【対象となる社会貢献活動】

1. 大規模災害などの救援・支援活動
2. 戦争や紛争による難民救済などの活動
3. 人権救済活動
4. 地球環境保全活動
5. ハンディキャップをもった人たちの活動
6. 教育・文化などの子どもの健全育成活動(除くスポーツ)
7. 医療や福祉などの活動
8. 地域コミュニティ活動(レクリエーション活動を除く)
9. 生活困窮者自立支援活動

## 【地域助成の応募対象】

連合組合員およびその家族、あるいは退職者が、積極的にNPOなどの運営に参加している団体がおこなう事業・プログラムとします。また、地方連合会が日常的な活動で連携している、NPO等団体がおこなう事業・プログラムとします。(構成組織が推薦する場合も地方連合会へ申請して下さい)



※詳細については、連合のホームページをご覧ください。  
<http://www.jtuc-rengo.or.jp/>  
 ※ポスターを1月下旬を目途に構成組織に送付します。

## もうすぐ選挙

### 吉川市議会議員選挙

▶降旗 聡(ふりはた さとし) 45才(無・現1・連合埼玉推薦2回目)  
 告示日:2016年1月17日(日) 投票日:2016年1月24日(日)

### 現在予定される1月の日程表です

1月	連合埼玉・事務局	行事等
1日 金		地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
2日 土		
3日 日		
4日 月		
5日 火		
6日 水		連合「新年交歓会」(16:00~17:30・ホテルラングウッド)
7日 木		埼玉新聞社「新年賀詞交歓会」(17:00~・浦和ロイヤルバインズホテル) ①川越・西入間地域協議会「第7回幹事会」(18:30~・ネット21川越) ②自治労埼玉「旗開き」(18:00~・さいたま共済会館) ③連合白書学習会・最賃担当者会議(13:15~・連合会館) ④埼玉経営者協会「新年会員懇談会」(13:30~17:00・パレスホテル大宮) ⑤衆議院議員たけまさ公一「新春の集い」(18:00~・ホテルプリランテ武蔵野)
8日 金	①第2回四役・執行委員会(10:00~・13:00~・ときわ会館) ②新春のつどい(16:00~・ときわ会館)	全水道「2016年旗開き」(18:30~・さいたま共済会館)
9日 土		①北埼玉地域協議会「地協総会」(10:00~・羽生市民プラザ) ②埼玉教組「2016新春旗開き」(18:00~・さいたま共済会館)
10日 日		
11日 月		電機連合「新春旗開き」(18:00~・ホテル木暮)
12日 火		①建設埼玉「2016新春の集い」(15:00~・ラフレさいたま) ②交連労協「新春旗開き」(18:00~・大宮サンパレス)
13日 水		①情報労連「新春の集い」(15:00~・ときわ会館) ②連合関東ブロック第1回幹事会(11:00~・連合会館) ③第2回地方連合会事務局長会議(13:30~・連合会館)
14日 木		
15日 金	第1回組織委員会(10:00~・連合埼玉会議室)	①JP労組「旗開き」(17:00~・ときわ会館) ②本庄・児玉郡市地域協議会「第15回地協総会」「新春の集い」(18:00~・19:00~・グランドホテル本庄) ③東部地域協議会「旗開き」(18:30~・アクシス春日部)
16日 土		川越・西入間地域協議会「総会」(14:00~・ラ・ボア・ラクテ)
17日 日		吉川市議会議員選挙告示日
18日 月		県央地域協議会「総会」(18:00~・東武(ンケットホール)
19日 火		熊谷・深谷・寄居地域協議会「第5回地協総会」「旗びらき」(18:00~・19:00~・キングアンバ(サターホテル)
20日 水		埼玉県私鉄「団結旗開き」(18:00~・さいたま共済会館)
21日 木		
22日 金		①さいたま市地域協議会「総会」(18:00~・ときわ会館) ②秩父地域協議会「第17回地協総会」「新春の集い」(じばさんセンター)
23日 土		
24日 日		①連合関東ブロック「2016女性会議」(13:00~1/25 11:50・茨城県) ②吉川市議会議員選挙投票日
25日 月	青年委員会新旧幹事会(10:30~17:00・さいたま市商工会議所)	
26日 火		埼玉県生産性本部「新春労使懇談会」(15:30~18:30・さいたま共済会館)
27日 水	組合役員教育プログラム基礎編①②(10:00~・あけぼのビル3F)	
28日 木	公選法学習会(13:30~・さいたま新都心TOIRO)	JR総連「旗開き」(18:30~・東天紅大宮)
29日 金		①JAM埼玉躍進パーティー(17:30~・パレスホテル大宮) ②社会党埼玉県連合2016年新春のつどい(18:00~・さいたま共済会館)
30日 土	組合役員教育プログラム基礎編③④(10:00~・あけぼのビル3F)	
31日 日	2016春闘パワーアップセミナー①(10:00~・あけぼのビル3F)	運輸労連「旗開き」(18:00~・ホテル鬼怒川御苑)

## Akebono Building あけぼのビル

事務局長 | 佐藤 道明 |

先日、テレビ埼玉「ごごたま」のインタビューを受けた。毎週金曜日の「ごごたま」に「ネット21運動」協力企業である介護事業者「ウイズネット」が、地域の福祉情報や暮らしに役立つ福祉情報を伝える「ういず安心応援団」と言うコーナーを持っている。今回「介護離職ゼロ 介護の問題を一人で悩まないで」と題し、インタビューを受けた。12月18日(金)に放映されたが放映時間の関係からカットされた内容も含めて、本号でその内容について紹介する。

### ◆「超高齢社会」介護の課題に直面

介護・看護で離職される方は、年間約10万人と言われている。今、日本が人口減少社会に入り、それに伴って労働力が減少するなかで、介護離職は大きな課題と言える。

民間がおこなった調査では、介護が必要な親を抱えている就労者の約3人に1人が仕事の継続に不安をかかえているという調査結果もあり、また、連合が2014年に要介護者を介護する人を対象におこなった調査では、約8割の人が「ストレス」を感じ、およそ3分の1が「憎しみを感じる」と答えている。そして、介護の状態が重くなればなるほど、さらにその傾向が増していくという結果が出ている。

要介護認定を受けている人は614万人、10年前と比べると1.5倍にも増えている。介護認定者が増えるということは、介護をする人も増えるということである。在宅で親の介護をすることには限界があり、様々な介護サービスを利用しながら働き続けるという選択が必要であると考える。

### ◆一億総活躍社会で介護はどう変わるのか

11月26日、「一億総活躍社会」実現への緊急措置対策が発表された。介護の分野では、介護が必要な人を抱える現役世代のため、特別養護老人ホームなどの介護施設を2020年代初めまでに50万人分を整備する目標を掲げた。介護休業は3回まで分割取得可能にしていく。受け取る給付は、休業前の給与水準の40%から育児休業と同じ67%を念頭に引き上げるなどの方針が示された。

国は介護休業93日を「家族による介護がやむを得ない場合の緊急措置」とし、「家族が介護に関する長期的方針を決めることができるようになるまでの期間」と位

置づけている。企業によっては93日を上回る期間を設けているところもあるが、93日という期間は、介護サービスを開始し軌道に乗せるまでの期間と理解すべきであり、仕事を続けながら介護ができるプランを作成することが必要である。

一概には言えないが、介護施設に入居するには、ひと月の利用料が約20万円は必要である。一般の労働者が自分たち家族の生活費に加えて支払うにはあまりにも負担が大きい。また、自分の老後のことを考えてみても、誰でも利用できる額とは言えない。

施設は原則個室であるが、プライバシーの問題もあるとは言え、個室でなくてはならないのだろうか。病院の相部屋はベッドをカーテンで仕切りプライバシーを保っている。2人部屋、4人部屋にして利用料を下げることも検討すべきではないだろうか。

一方で最近よく耳にする虐待に関しても、相部屋のよりに複数の人の目があった方が減っていくのではないか。虐待をさせない目をつくることにもつながるのではないだろうか。

### ◆「働き続ける」それが介護に臨む第一歩

私たちは40歳になると介護保険料を支払い始めるが、私たちは介護保険制度に関して無知ではないだろうか。介護に直面した時にあわてないために、介護保険制度の一定の知識を持つておくことがこれからは必要となってくる。ひとたび介護が始まると先がなかなか見えない。介護離職をして介護が長期化すればするほど、介護が終わり就職をしようとしても年齢が大きな壁となって再就職が難しくなる。

法改正や制度の理解とあわせて、職場の介護に対する環境の改善も重要である。日本ではプライベートのことは企業に持ち込まないと言う文化がある。育児と違い、介護のことは職場で口にしない、結果、企業は解らない、職場も知らない、一人で悩んでどうにもならない状況に陥り、やむを得ず離職を選択する人がいるのも現実である。介護のことを職場でもっとオープンにできるように、そして、介護休業や介護休暇を取得しやすい職場環境に整え、みんなで助け合いながら「介護離職ゼロ」に取り組める職場にすることが、今、労働組合のやるべきことであり役割だと思う。

介護保険制度の知識を持ち、いざというときには自分一人で悩まず、公的機関や介護事業者、さらには職場に相談することが大切。そして仕事と介護の両立を考え、働き続けるためのプランを作成することが介護に臨む第一歩だと思う。

2015.12.22